慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	匿名女史著 若き女工の経歴談
Sub Title	
Author	星野, 勉三
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.4 (1909. 11) ,p.333(97)- 336(100)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新着批評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19091101-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

財産の社會は亦個人價値より出立するのみにして、畢竟は物價(代價)成定の理法の支配を脱する能はざるものなりとはシュ氏主張の骨子なり。從て分配論の研究は依然として自由競爭を度外視す可からずとの結論を得たるものなり。

予はシュ氏の此說は大體に於て動かし難きものなりと思考す。而して社會主義理論中特に勞働全收論に就て空前の研究を企てたるアントン、メンガー氏の說も亦た私有財産の社會に於て『勞働全收權』の實現し難きことを主張するを見ても、愈々然るを思はざるを得ざるなり。是れ予が小泉君を煩はしたる所以なり。

(福田德三記す)

新著批評

匿名女史著 若き女工の經歷談

August Bebel 序
(Jugendgeschichte einer Arbeiterin)

星野勉三

近着獨逸雜誌の新著紹介欄にベーベルが表題の如き一書を公にしたとあるから此社會主義の論客は又何か奇拔な事を云ふのだらうと思つて早速一本を取り寄せて見た尤もベーベルの著婦人と社會主義なる本は頗る有名なるものであるから余は遂に此新著も讀んで見る氣になつたのである然るに讀んで見るとベーベルの著でなくして實はベーベルの序であつた。

此匿名女史の誰れであるかは知る事を得ない乍然書中の模樣では澳太利の婦人の樣に見へる此女の父と云ふのは大の飲酒家で飲めば必ず母を打つと云ふ厄介者で又母は無教育な女であつたから家庭に樂みなど云ふ事は全然なく常に喧嘩を以て滿たされ居つた但し此兩人の意見の一致した點は只一つあつた夫は國家が子供に普通教育を强制するのは不必要で其可否は只兩親のみがよく所決し得るのである而して其娘の如きは家が貧困であるから學校へ出すよりは却て工場へでも通はして賃銀をとらせるが適當で子供を通學させぬとて罰金を課するが如きは杓子定規の處置であると云ふ點のみであつた、扨て不和と貧困との間に育つた此娘は到底幸福なる可き筈はなかつたが間もなく父は不養生の爲に死んで其葬式の際に黑の喪服を借りて着た時は却て幸福に感じて此儘で居たいと思つたと自白して居るのは境遇の爲とはいへ乍ら實に淺ましき次第である此父の死後は母が工場へ通つて其手一つで五人の子供を養ふので此娘も徒食して居る譯に行かず僅かに八歲にして女工として工場へ入る事になつた之が爲に毎日規則正しく通學する事は出來ず餘り缺席が多いので其母は監督不行

屆として廿四時間の拘留の申渡しを受けたが定めの時日に監獄へ出頭しなかつたので二人の巡査が來て連れて行つた然るに其後娘の十歳の時に此家族が他の町へ轉居してからは年齢を多く屆け出でたので就學の方の監督もなく全然工場にて働く樣になつた左り乍ら星を戴て工場へ行き歸り又は寒中火の氣のない所で指を氷らせて働くが如きは少女には堪へ難き所で當時彼女の只一の希望は母に起されずに自然に目の覺る迄眠て見たいと云ふ事であつた又工場の勞働も身體上の困難は扨て擱き雇主中には詐僞的の者があつて手工を敎へる事を約して授業料をとり乍ら之を子供の守りに使ふ者や又は當初は高い賃銀を約し乍ら種々の口實を設けて之を直切る者もあつた而して仕事のある時は未だ宜しいが如何に安い賃銀で働かうとしても仕事がなく隨て到底普通の食事が出來ない場合も屢々あつた此營養不良の爲か彼女は或時氣絶したので醫者に診察して貰ふと父や祖父のアルコール中毒の遺傳も亦其一原因であると云ふ事で遂に施料で入院した中時に病院で仕事せずに充分に眠る事を得たのは彼女に無上の幸福と感ぜられた。

宗敎に關しては彼女は頗る懷疑的であつた或年のクリスマスに信心で名高い叔母を訪問し其窮狀を訴へて補助を乞はんとしたが常に不在で遂には一偏面會したるに人間の運命は神の意思であるから有り難く之に服從す可きものであると云つて取り合つて呉れなかつた又或時は寺で懺悔した所が僧侶が種々の質問を發して此の如き罪を犯した覺へがないかと聞くのだが其質問たるや眞面目なる人間には侮辱としか聞かれない又神に蠟燭を捧げても奉納者は之が燃へ盡す迄張番をしては居ないのを機とし僧侶は中途で之を消して置き暫時の後點火して又之を他の信者へ賣り付け此の如くにして蠟燭代の二重取り三重取りをやる又聖母マリヤは信者の寄附で貴金屬や寶石を以て飾られて居る夫で彼女は之に祈りを捧げたが歸宅して後考へて見ると此若き女の頭に殘つた印象はマリヤの難有味にあらずして其寶石の美なる事のみであつた又或時信者の團體と共に遠方の名刹へ參詣に行つたが之は只御祭り騷ぎをなすに過ぎないので信心などと云ふ事は全然問題にならない其一偏の祈禱の終つた後は皆近所の料理屋へ行つて飲めや歌への大騷をするのであつた。

彼女は生來利口の方であつたので幼少の時から好んで文學書類を讀み長ずるに及んでは貧しい中から新聞紙を買つて讀み特に其社說を愛讀した又裁判の記事も其好む所で被告中には屢々社會黨員がある所から之より社會主義の何物なるかを殆んど知り得て遂に此主義の人となつた特に其長兄も此黨員であつたので其紹介で他の男の黨員とも懇意になり以て見聞を廣める事が出來た又其當時ベーベルの婦人と社會主義なる本をも讀んで益々此主義に對する嗜味を深ふした而して後に其派の集會で演說し又は新聞に意見を發表する迄になつた然るに其の當時此の女の居つた工場は待遇の頗る宜しい方であつたのに丁度此處に於て彼女が社會黨の一員となつたのは一寸讀者に面白く感ぜらるゝ所である其後彼女は女工の生活を辭して專心社會主義の擴張に盡力する事になつたが其無敎育にして頑固なる母はコンナ政治運動には大不贊成であつたソコデ或時エンゲルスとベーベルが其町へ來た序に彼女の家へ來て其母に娘の行動の適當なる事を說いて貰ふたが此エンゲンスは最早老人でベーベルは此娘の父とも云ふ可き年盡であつたから二人の歸るや此濟度す可からざる母は頗る不平でコンナ結婚の望もみない老人と交際し特に家へ迄連れて來るとは何たる事ぞやと譴責した乍然彼女の社會主義に對する確信は益々强くなつてそうして次の如きゲオルヒ　ヘルヴェーの言葉は必ず實現さるゝものとして疑はなかつた。

我々が將來より希望する所のものは勞働とパンとを得て子供は學校へ行く事を得老人は乞食に行く事を要せざるにあり。

之が女工經歷談の大要である其報ずる事實は敢て珍らしい事はない特に小說などにコンナ事は澤山書いてある一昨々年頃亞米利加で有名であつた

100 Upton Sinclaire の Jungle の如き又は Paul Goehre の Drei Monate Fabrikarbeiter などは事實談として有名なるもので勞働者の境遇の悲酸なる事は充分に現はれて居るが宗教に關する事は多く見當らぬ然るに此匿名女史はカソリックの信者であるにも拘はらず遠慮なく之に關する意見を述べたのは我々の大に面白く感ずる所である若し匿名とせずして公然其名を署したならば讀者に感動を與ふる事亦一層大であつたらう。

廣告

一金拾五圓也　牛場卓藏殿

右第一回寄附トシテ頭書ノ金額ヲ賜ハリ候此段廣告候也

明治四十二年十一月

三田學會

本誌前號目次

論說

人生の意義及び價値（第二回）　川合貞一

都市と人物發生の關係　田中一貞

上總介忠輝　阿部秀助

時評

英國貴族院と自由黨內閣—ロースベリー伯の豫算案反對—工場法案の制定—歲費增額案—政友會の十周年大會—直轄學校に對する修身訓令—北極探險家の功名爭ひ—火星との通信　高橋誠一郎

雜錄

領事裁判を論ず　小倉和市

亞米利加鐵道會社の概要　鈴木恒三郎

新著批評

加藤政之助著產業政策　星野斯吉